

岩屋中だより

令和7年6月1日 NO5

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

自分たちの生活を変える大きな機会 (chance) ⇒ (1)

自分の手によって自分たちの生活を変える (challenge) ⇒ (2)

自分たちのために自分たち自身の生活を変える (change) ⇒ (3)

私たちの生活を、私たちの手によって、私たちのために振り返っていきましょう！

体育大会を終え、学校生活は一段落としました。とはいっても、生徒たちは、あと10日ほどに迫った長崎市中学校総合体育大会に向けて、モチベーションも高まってきたところです。

さて、そのような中、生徒たちにとっては重要な行事を迎えようとしています。それは、生徒総会です。生徒自身が、自分たちの生活を振り返り、改善していくとする自治活動の中でも要となる会になります。自分たちの生活を送っていくうえで、どこをどのように改善すればよいか、そして、その改善にあたって、指揮監督するところがどこになるのかなど、一つの組織が自立し、自治活動を行うために会員である全校生徒の意見を取り入れて行います。その自治活動の母体となるのが、構成員が生徒である生徒会になります。よく、生徒会と聞くと、生徒会役員と想像しがちですが、生徒会とは、生徒全員で構成する組織の名称であり、生徒会は、生徒会役員ではないのです。生徒全員の組織です。

上の標題に(1)～(3)をつけています。(1)は、生徒会という組織は生徒『の』を意味しています。

『～の』を英語で言えば『of～』ですね。

自分たちの生活を変える chance です。

さて、(2)に印をつけているのは、『自分たちの手によって』というところがキーワードになります。生徒総会で自分たちの生活の改善点を取り上げ、話し合いを行うというのは、生徒の手によって生活改善を行うという意味です。『によって』、英語では『by～』です。

ここまで触れると、(3)は予測がつく人もいるでしょう。この変化とチャレンジは、誰のためにするのか？という視点で考えてみるとよいです。話し合いは、自分たちの生活向上のために行います。『ために』は英語では『for』ですね。

生徒総会の話をするときに、『of～、by～、for～』という言葉がよく使用されます。このことばは、社会科の歴史的分野で登場するアブラハムリンカーン大統領が演説で話した言葉です。彼は、南北戦争で激戦となったゲスティブーグの戦いの地において、『人民の、人民による、人民のための政治』という言葉述べました。このことばのように、生徒会という組織は、生徒のもの、生徒の手によって運営されるもの、生徒のために運営されるものと解釈できるでしょう。その3つに、年度当初話した chance、challenge、change の3つの要素を加えました。

今の学校生活を振り返った時に、学校の中で辛い思いをしている人がいないとか、学校生活の中で改めていくべき事柄がないとか、専門部活動において〇〇〇したほうが生活向上につながるのにはなにか？という視点で話し合いに参加してほしいと考えます。生徒会本部掲げているテーマ『挑戦し続ける岩屋中学校』をぜひ実践に移していきましょう。すべてのキーワードは、私たちの生活の足元を考えることではないでしょうか。

※興味がある人は、アメリカの歴史の、『南北戦争』とか『リンカーン(リンカン)』を調べてみてください。リンカーンは、奴隷解放宣言を出して、奴隷となっていた黒人を助けたことでも有名なアメリカ大統領です。

※『風と共に去りぬ』は、この南北戦争のころのアメリカを描いた有名な小説です。本が好きな人は、どうぞ……。

長崎市中総体に向けて

いよいよ、6月7日から長崎市中総体が開催されます。6月5日～7日に行われます。各部とも最後の追い込みというところでしょう。3年生にとっては、最後の中総体ですから、思い入れもあると思います。1勝をという目標もあれば、県大会出場という目標という目標もあるでしょう。優勝するという目標を持って最後の仕上げに臨んでる部もあると思います。どの目標もその根底には、自分の力を出し尽くすということがベースであることはまちがいないでしょう。

し合いを前にした皆さんに送る言葉は限られています。

一つ目は、上記のとおり、自分の最高の力を出し尽くすことです。試合の中でも最後まで勝ちたいという願いを持ち続け、勝負を諦めることなく最大限の努力をすることです。努力をしてきたから勝てるとは限りません。負けるかもしれませんし、勝つかもしれません。勝負は時の運もあります。しかし、勝った者は、すべからず努力しています。『努力した者が勝つとは限らない、しかし、勝った者はすべからず努力している。』と言われます。最後の最後まで、努力し勝負をすることが勝つために必要な最低条件かもしれません。

さて、勝負は時の運と先述しましたが、試合には、『流れ』というものがあります。それは、わずか、十数秒で試合が終わる陸上競技であっても存在します。1時間を超す球技の競技にも存在します。もちろん、格技にも。この流れの中で、優勢だったときが一番大事です。人間は、劣勢よりも優勢に立ったとき、気が緩みミスをしがちなのです。心の中のつぶやきで言うならば、『**勝てるかも……**』でしょうか。明らかに、優勢に置かれたときの心つぶやきです。そう思った瞬間に、勝機が逃げていきます。思わないミスをしたり、ゲームの流れが相手に傾く決定打をあげたりするものです。勝つためには、『勝ちたい』と等よく願い続け、最後の1秒まで真摯に戦い、『勝てる』と思わないでほしいと思います。これは、これまで部活動の顧問をしてきて経験したことから伝えられるメッセージです。

さて、最後にいつも伝えていることを再度伝えたいと思います。このように中総体に出場し、競技ができるのは、決して当たり前のことではなく、『有り難い』ことだという感謝の気持ちを持ち、3日間を過ごしてほしいと思います。岩屋の『力』を存分に発揮し、生涯思い出に残る試合にしてほしいと思います。

長谷部 誠さんから学ぶ

長谷部誠さんと言って分かる人は、サッカー通の人でしょう。ウィキペディアによると、次のように紹介しています。

長谷部 誠(はせべ まこと、1984年1月18日生)は、静岡県藤枝市出身の元プロサッカー選手、サッカー指導者。現役時代のポジションはミッドフィールダー、ディフェンダー。元日本代表。

2006年から、代表引退を発表した2018年まで日本代表に選ばれ続け、キャプテンとしてワールドカップに3度出場(2010年・2014年・2018年)。キャプテンとして出場した代表での試合数は81試合で、日本代表歴代1位である。ブンデスリーガにおいて外国人の選手としては、クラウディオ・ピサロに次ぐ歴代2位の出場記録保持者であり、アジア出身の選手としては歴代1位である。2019年にはドイツのサッカー専門誌『kicker』選出のシーズンベスト11と、欧州サッカー連盟(UEFA)が選ぶヨーロッパリーグ(EL)の優秀選手に選出されている。

この長谷部誠さんの著書『心を整える』から勝利をたぐり寄せるための56の習慣を紹介しましょう。これは、中総体前ということもありますが、中学生にとって最大の試練は、自己の進路選択とその実現です。そのことをイメージしながら、彼が挙げた習慣を読んでみてください。ただし、内容の中には、大人向けに書かれているものもありますので、それは無視してください。詳細は、その本を読んでみてください。『さすが!』と思える内容がずっしり載っています。

まず、全文から……

僕のキーワードは、『心』です。僕は、『心』を大切にしています。スポーツ業界などでよく言われる『メンタル』という言葉で言い換えてもいいです。ただ、よく『メンタルを強くしよう』『心が折れちゃだめだ』『心を磨け』など言われることがありますが、僕の感覚はちよつと違います。

僕にとって『心』は、車で言うところの『エンジン』であり、ピアノで言うところの『弦』であり、テニスで言うところの『ガット』なのです。???という感じがかもしれませんが、『メンタルを強くする』というよりも、『調整する』『調律する』と言った方が敵している感覚。車のエンジンに油をさし、ピアノ弦を調律する、そしてテニスのガットを調整する。そんな感覚を心に対して持っているのです。つまりは、『心のメンテナンスをする』『心を整える』ということです。常に安定した心を備えることによって、どんな試合でも一定のパフォーマンスができるし、自分を見失わずにすみませう。